

Moreau, Jean Michel, dit le jeune et Freudenberg, Sigismond

Monument du costume physique et moral de la fin du dix-huitième siècle, ou tableaux de la vie, ornés de figures...

Neuwied sur le Rhin, Chez la Société typographique, 1789. 1 vol. 26 plates (copper mono.). 58×42.3cm. <K383. 135-M> 文献番号 3-59-③

Hiler p. 746 Colas 1124 Lipper. 1124a

モロー、ミシェル（モロー弟）『衣装の記念碑；18世紀末の外観と精神、または王室御用デシナトゥールのミシェル・モローや他の有名な美術家たちによって描かれ、刻版された挿絵で飾った写生画』

ジャン・ミシェル・モロー（Jean Michel Moreau, 1741-1814）は18世紀フランス最大の銅版画家の一人で、王室御用のデシナトゥールを務め、とりわけロココ末期の風俗版画の名作を多数残した。その代表的傑作を集めて刊行したのが本書である。俗に〈モロー弟〉と呼ぶのは、有名な風景画家でバルビゾン派の先駆である兄のルイ・ガブリエル・モロー（Luis Gabriel Moreau, 1740-1806）と区別するためである。

本書は最初からこの表題で刊行されたわけではない。パリの印刷屋バルブー（Barbou）がロココ風俗版画集を思い立ったのはルイ15世治世の末期で、その第1集の原画をスイス出身の画家フルーダンペール（Sigismond Freudenberg ou Freudeberg）に依頼した。ロココ貴婦人の日常生活の一日を12枚の銅版画に収めたこの作品集は『18世紀フランス人の風俗と服装史のための版画集』*Suite d'estampes pour servir à histoire des mœurs et du costume des Français dans le dix-huitième siècle* <K383. 135-M>として1774年に刊行され、翌75年にも別の印刷屋プロ（Prault）が再刊した。

プロは宮廷御用の印刷屋であり、モローの義父でもあったところから、1776年初版の第2集と1783年初版の第3集はモローが担当した。彼に白羽の矢が立ったのは、もちろん、単なる縁故によるものではない。というのも、彼は当時すでに評判の高い挿絵画家で、ラ・ボルドの『小唄集』やルソーの『エミール』『新エロイズ』などの著名本の挿絵を描いていたし、ルソーの賛美者でもあった。『衣装の記念碑』という表題の起りには、1789年、レティフ＝ド＝ラ＝ブルトンヌ（Restif de la Bretonne）が、全3巻中の名作だけを選んで、その上自分の独自の情景文を付してこの書名で刊行したことに始まっている。その後、モローのこの一連の作品は『衣装の記念碑』と呼ばれるようになった。

総数26点中、フルーダンペールの作品はわずかに2点だけで、残りの24点はモローの第2巻と第3巻の全作品を含んでいる。『書物の歴史』の著者グロリエは『衣装の記念碑』への惜しみない賛辞を、次のように述べている。「ジャン・ミシェル・モローには特別の位置を与えねばならぬ。彼は繁栄の一時期の、ある無数の産物の中でも、おそらく最も成功したものである。そして彼の偉大な書物は、すでに歴史の裁きを受けた繊細で貴族的で

退廃的な一つの世界の、おそらくは最上の資料である。」(大塚幸男訳) また『18世紀の版画』の著者ドゥシェールも「これは18世紀の中でも最も見事な本である。構図の自由自在な変化の巧みさと、優れた版画技術の完全さは、たとえ、それだけでも高く評価されるに十分である。」と述べており、更にイギリスの服飾史家レイバーも『衣装の記念碑』は、それには死の場面がないということとを別にすれば、私たちにとって全くの記念碑である。モロー弟のような芸術家の仕事は、後世の人々がいくら感謝してもしきれないほど風俗史や服飾史の面で貢献している、と賞賛している。このように『衣装の記念碑』は名実共に記念碑となった。

本書の構成は次のようになっている。*印だけがフルーダンペールの作品。

①「妊娠の表明」*Déclaration de la grossese* ②「慎重な心遣い」*Les précautions* ③「近づく母となる日」*J'en accepte l'heureux présage* ④「ご心配ないことよ」*N'ayez pas peur ma bonne amie* ⑤「お坊ちゃまですよ」*C'est un fils monsieur* ⑥「小さな代父たち」*Les petits parrains* ⑦「母性のよろこび」*Les délices de maternité* ⑧「完全な一致」*L'accord parfait* ⑨「マルリー宮園への待合せ」*Le rendez-vous pour Marly* ⑩「別れ」*Les adieux* ⑪「ブーローニュの森での出会い」*La rencontre au bois de Boulogne* ⑫「王妃宮の貴婦人」*La dame du Palais de la Reine* ⑬「めざめ」*Le lever* ⑭「略装」*La petite toilette* ⑮「盛装」

La grande toilette * ⑯「朝の部屋着」*La matinée* ⑰「競馬場」*La course de chevaux* ⑱「当たった賭」*Le pari gagné* ⑲「カードのホイスト遊び」*La partie de wisch* ⑳「愛の告白」*Oui ou non* * ㉑「不意打ち」*La surprise* ㉒「^{さじき}棧敷での社交」*La petite loge* ㉓「オペラがはねて」*La sortie de l'opéra* ㉔「夕餉のあと」*Le souper fin* ㉕「農夫の家で」*Le seigneur chez son fermier* ㉖「真の幸福」*Le vrai bonheur*. 以上のように、初版の第2集にも収められた①～⑫までの主題は、貴婦人の妊娠、出産及びその娘の生涯で彼の最も充実した時期の傑作で埋まっている。

(石山)



Le Rendez-vous pour Marly.

モロー画「マルリー宮園への待合せ」